

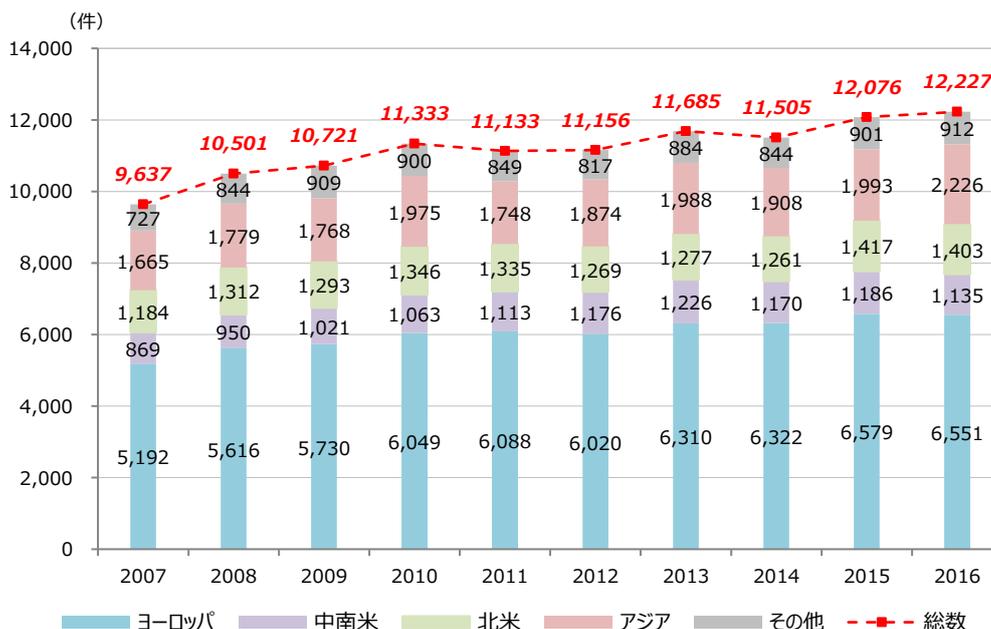
第2章 現状・課題

2-1 MICEの現状

(1) 国際会議の開催状況

① 世界の開催状況

国際会議協会（International Congress & Convention Association）（以下「ICCA」という。）が集計・発表している統計※によると、世界的な国際会議の開催状況については、開催件数が概ね増加傾向となっています。地域別では、主にヨーロッパでの開催が多い状況ですが、近年は、アジアの経済成長を背景として、アジア地域でも開催件数は増加しています。



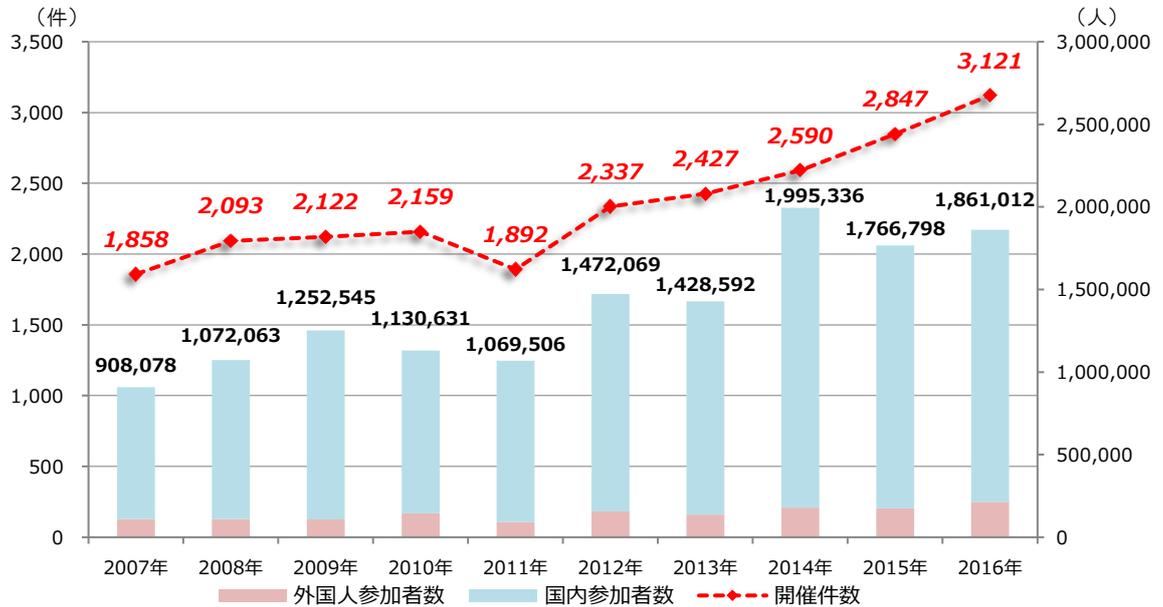
【地域別国際会議開催件数の推移（ICCA統計）】

※ 国際会議協会（ICCA）統計 ①国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体が主催し、②参加者総数が50名以上で、③定期的に開催され、④3か国以上での会議持ち回りがある会議の統計。

② 日本の開催状況

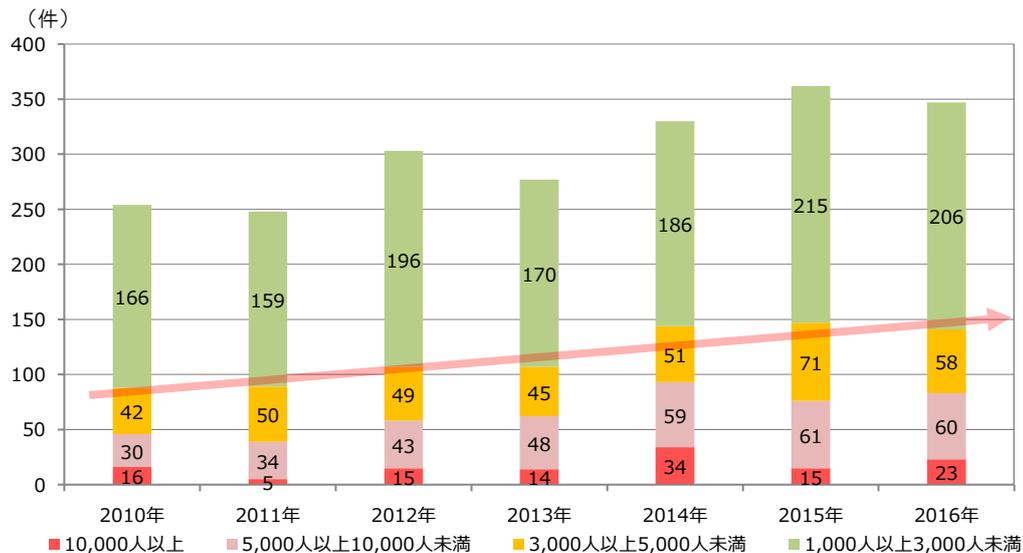
ア 国際会議

日本政府観光局（Japan National Tourism Organization）（以下「JNTO」という。）が集計・発表している統計※によると、国内の国際会議の開催状況については、東日本大震災の影響を受けた平成 23 年（2011 年）に若干落ち込んだものの、開催件数、参加者数ともに概ね増加傾向にあります。



【国際会議の開催件数・参加者数の推移（2007～2016；JNTO統計）】

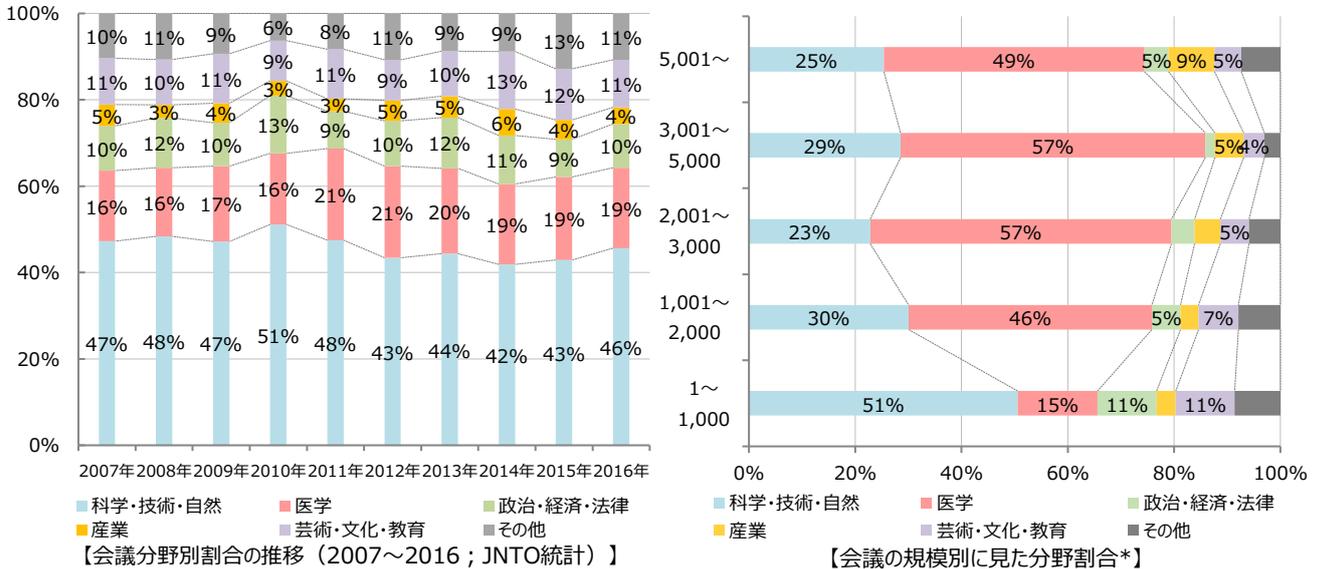
国際会議全体の開催件数は、平成 22 年（2010 年）（2,159 件）と平成 28 年（2016 年）（3,121 件）を比較すると、約 1.4 倍に増加しています。そのうち、大きな経済波及効果等が見込める、3,000 人以上の規模の国際会議開催件数は、平成 22 年（2010 年）（88 件）と平成 28 年（2016 年）（141 件）を比較すると、約 1.6 倍に増加しているなど、大規模な国際会議が特に増加傾向にあるものと考えられます。



【1,000人以上の会議開催件数（2010～2016；JNTO統計）】

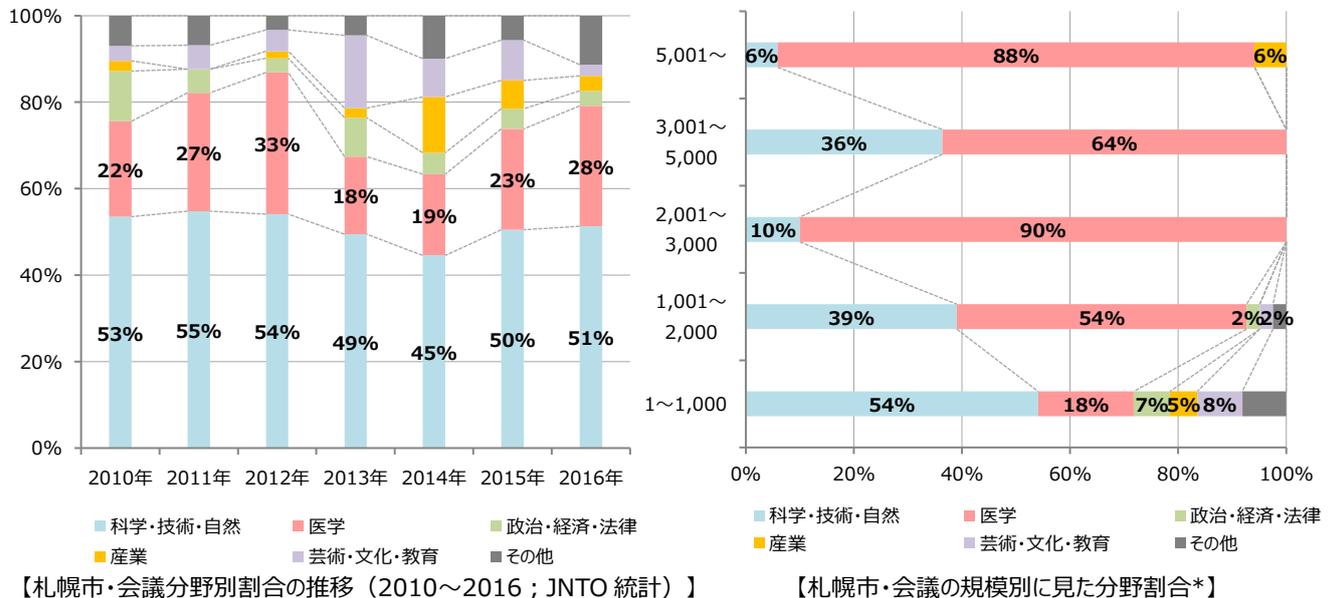
※ 日本政府観光局（JNTO）統計 ①国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体が主催し、②参加者総数が50名以上で、③日本を含む3か国以上が参加し、④開催期間が1日以上の会議の統計。

分野別では、「科学・技術・自然」分野の割合が全体の40～50%程度、「医学」が15～20%程度となっており、この二つの分野で全体の6割程度を占めています。また、「科学・技術・自然」は比較的小規模な会議が多く、「医学」は3,000人を超えるような大型国際会議の占める割合が高くなっています。



*表はJNTO国際会議統計・資料編3（2007～2016年の累計値）を基に導出した規模別割合。

札幌で開催された国際会議を分野別に見ると、「科学・技術・自然」と「医学」で合わせて70～80%程度を占めており、全国的な傾向よりも高い割合を示しています。さらに、会議の規模別に見た分野割合では、参加者2,000人超の会議では、「医学」の占める割合が高くなっています。



*表はJNTO国際会議統計・資料編3（2007～2016年の累計値）を基に導出した規模別割合。

札幌は、北海道大学や札幌医科大学を始めとした学術機関が充実しており、国際会議（学術系会議）を開催するにあたってのキーパーソン[※]となる人材も豊富であることから、「科学・技術・自然」「医学」分野の学術会議の開催にあたって大きな強みを有しています。特に北海道大学は、全国第11位の会場別国際会議開催件数（JNTO統計、平成28年度（2016年））であ

※ キーパーソン 学会等の団体において会議の開催地決定にあたっての決定権を持つ人物。

るなど、高い競争力を持っているものと考えられます。しかしながら、札幌市における大学機関との連携については、その取組に着手したところであり、他都市に比べて遅れているものと考えられることから、今後の連携の取組が重要となってきます。

また、札幌市の産業振興施策では、IT・クリエイティブ、健康福祉・医療等を重点分野に位置付けており、IT・クリエイティブの分野において札幌は全国有数の企業集積地であることや、健康福祉・医療の分野でも先進的な研究・開発に取り組む企業等が立地していることに加え、今後、両分野の関連企業の集積もさらに期待できることなどについても、「科学・技術・自然」「医学」分野の学術系会議開催にあたっての強みの一つであると言えます。

イ 国際会議以外の開催状況

国際会議以外のMICEについては、公的な統計等がなく、全体像が把握しづらい状況です。

そのうち「M（企業内会議）」と「I（報奨旅行）」については、観光庁が設置する「MICE推進関係府省連絡会議」における「関係府省MICE支援アクションプラン」の中間とりまとめ（平成29年（2017年）7月21日）において、今後の取組の基本的考え方の中で「M、Iの誘致を進めるためには、日本を選択してもらうために企業内会議や報奨旅行の実施地を決定する決定権者に訴求する魅力的なメニューの開発が必要である。」とした上で、主要施策として「魅力的で多様なMICE（特にM・I）商品開発に向けてのニーズ調査」を行うこととしています。

また、「E（イベント、展示会）」については、一般社団法人日本イベント産業振興協会が発表している国内のイベント消費規模推計によると、イベント消費の伸びが、対前年比で、平成27年（2015年）は14兆6353億円（前年比110.1%）、平成28年（2016年）は16兆5314億円（前年比112.9%）と連続して10%を超えている状況にあります。

(2) 国内都市の状況

国内都市のうち、国際会議の開催件数が上位となっている、グローバルMICE都市※について、各都市の状況を整理します。

① 開催状況

国内の都市別国際会議の開催状況については、開催件数、参加者総数ともにグローバルMICE都市が上位を占めているとともに、増加傾向にあります。特に、平成27年（2015年）に新たな展示場を整備した仙台市については、整備以降、大幅な増加となっています。

なお、下表のとおり、東京※と横浜については、特に大規模な施設や高い需要を背景に参加者総数が突出していることから、以降の分析・検討等については、基本的に除外して考えることとします。

【グローバルMICE都市の国際会議開催件数の推移（JNTO統計）】

(暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016年 の順位	参考：2016ICCA	
									国内	国際
全国	2,159	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,121			7位
東京	491	470	500	531	543	557	574	1位	1位	21位
福岡	216	221	252	253	336	363	383	2位	4位	111位
京都	155	137	196	176	202	218	278	3位	2位	44位
神戸	91	83	92	93	82	113	260	4位	5位	120位
名古屋	122	112	126	143	163	178	203	5位	8位	160位
横浜	174	169	191	226	200	190	189	6位	5位	120位
大阪	69	72	140	172	130	139	180	7位	3位	100位
仙台	72	40	81	77	80	221	115	8位	10位	203位
札幌	86	73	61	89	101	107	115	8位	7位	152位
北九州	49	38	45	57	73	86	105	10位	13位	324位
広島	25	24	37	50	50	59	76	12位	11位	279位
千葉	56	30	32	28	31	31	43	14位	15位	392位

(単位：件)

【グローバルMICE都市の国際会議参加者総数の推移（JNTO統計）】

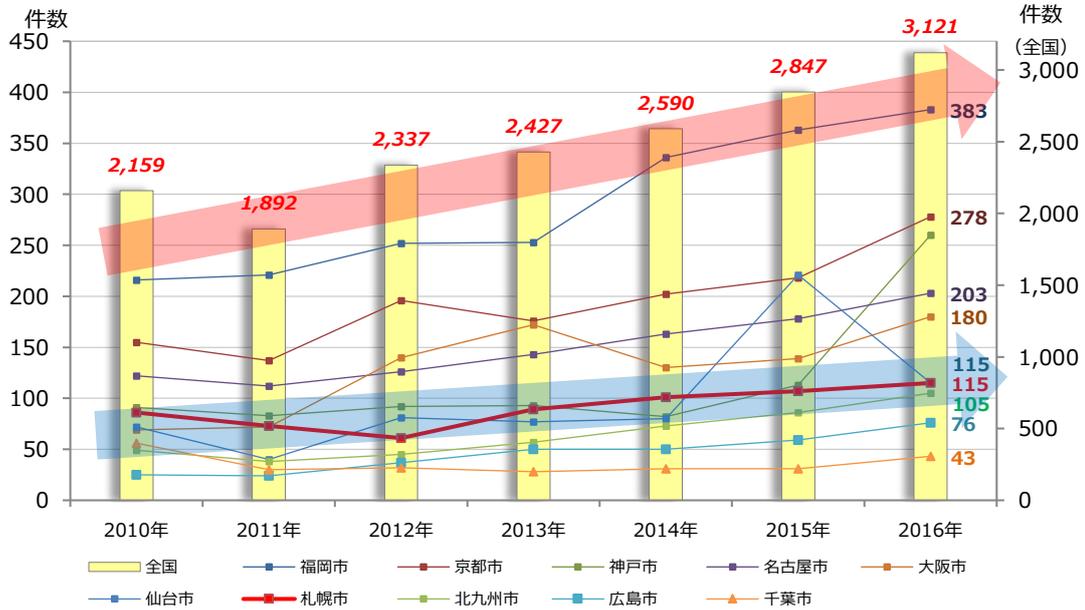
(暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016年 の順位
全国	113.1	107.0	147.2	142.9	199.5	176.7	186.1	
横浜	16.5	16.0	22.6	22.9	58.3	27.9	31.2	1位
東京	18.7	25.2	21.4	29.9	34.0	33.5	30.2	2位
京都	10.8	8.4	11.4	9.6	12.8	15.4	20.3	3位
福岡	6.5	8.9	17.1	12.0	14.0	15.8	19.4	4位
大阪	6.5	5.6	9.7	11.2	19.5	12.8	13.1	5位
神戸	9.1	4.3	12.5	4.7	10.7	10.1	10.1	6位
名古屋	7.5	11.2	12.7	7.1	9.6	10.3	10.0	7位
仙台	4.5	1.2	3.2	4.8	3.0	6.5	9.2	8位
札幌	3.3	5.0	6.2	5.2	4.0	5.4	6.3	9位
千葉	3.0	2.7	5.9	5.3	3.6	2.9	4.6	10位
北九州	3.0	2.0	2.4	2.7	4.4	5.4	4.4	11位
広島	2.0	1.9	2.1	3.7	3.5	3.5	4.1	12位

(単位：万人)

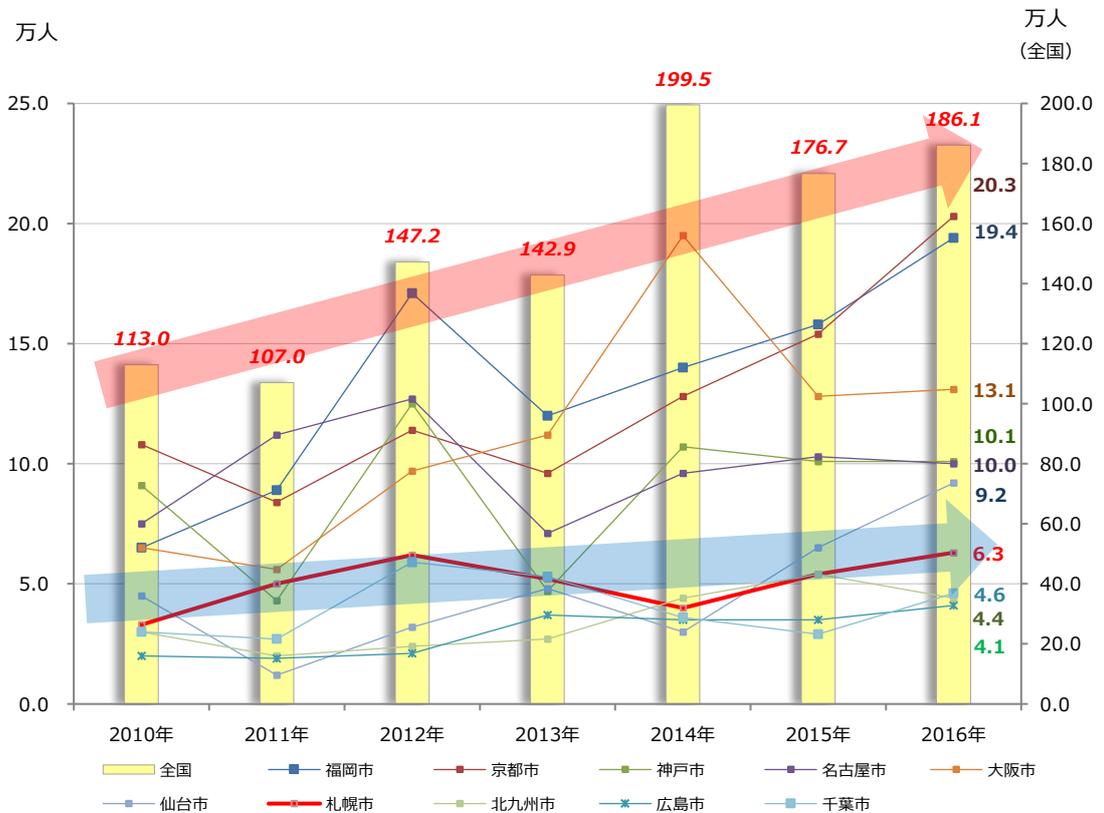
※ **グローバルMICE都市** 国際的なMICE誘致競争が激化する中、海外競合国・都市との厳しい誘致競争に打ち勝ち、我が国のMICE誘致競争を牽引することができる実力ある都市を育成するため、平成25年に7都市（東京都、横浜市、名古屋市・愛知県、京都市、大阪府・大阪市、神戸市、福岡市）と平成27年に5都市（札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市）の計12都市を選定し、国から支援を行うとともに、各地域の関係者の連携を強化し、都市の自律的な取組を促す制度。

※ **東京** この計画では、東京都のうち、東京23区のことを指す。

国内全体における国際会議の開催傾向と同様に、札幌においても、国際会議の開催件数や参加者総数は年々増加傾向であるものの、その伸びは他都市よりやや低くなっています。



【国際会議 開催件数の推移（東京及び横浜を除く）】



【国際会議 参加者総数の推移（東京及び横浜を除く）】



② 一件当たりの平均参加者数

都市及び施設ごとの一件当たりの平均参加者数について、下表のとおり整理しました。

札幌は第 8 位であり、中位より下の順位となっています。その一方で、開催件数順位が上位である東京と福岡が下位に位置しています。これは、全国的に大学での開催は一件当たりの平均参加者数が非常に低い傾向にあるため、大学での開催が特に多い、東京や福岡が下位になっているものです。

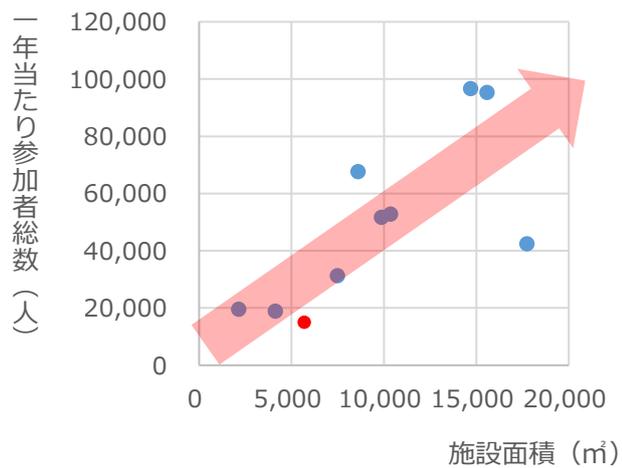
また、札幌コンベンションセンターについても、比較的下位に位置しています。上位に位置している施設は、会議室等の面積が大きな施設となっています。次ページのグラフにあるとおり、会議室等の面積と参加者数は一定の比例関係にあると考えられます。

【各都市の一件当たりの平均参加者数（2012-2016 年平均）（JNTO 統計）】

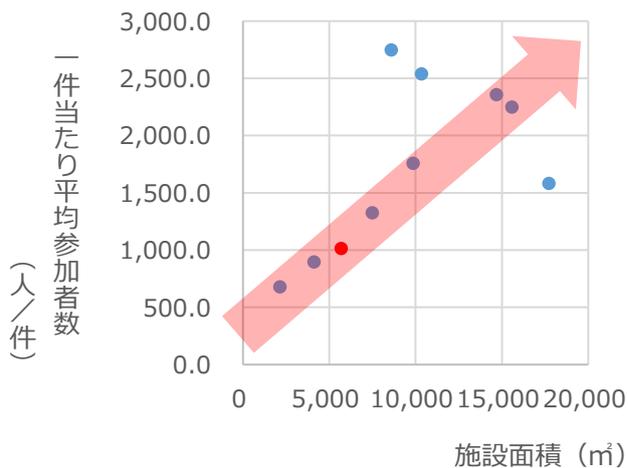
順位	都市名	平均参加者数（人/件）
1	横浜	1,535.0
2	千葉	1,284.6
3	大阪	861.8
4	神戸	710.4
5	名古屋	657.0
6	京都	645.4
7	広島	632.6
8	札幌	587.5
9	東京	548.3
10	北九州	526.7
11	福岡	481.8
12	仙台	454.6

【主な M I C E 施設の一件当たりの平均参加者数（2012-2016 年平均）（JNTO 統計）】

順位	施設名（都市名）	平均参加者数（人/件）
1	パシフィコ横浜（横浜）	3,005.7
2	東京ビッグサイト（東京）	2,804.2
3	福岡国際会議場（福岡）	2,749.4
4	名古屋国際会議場（名古屋）	2,539.1
5	幕張メッセ（千葉）	2,382.7
6	大阪国際会議場（大阪）	2,357.3
7	京都国際会館（京都）	2,248.4
8	神戸国際会議場（神戸）	1,760.0
9	東京国際フォーラム（東京）	1,582.6
10	仙台国際センター（仙台）	1,325.2
11	札幌コンベンションセンター（札幌）	1,013.3
12	広島国際会議場（広島）	895.7
13	北九州国際会議場（北九州）	680.4



【一年当たり参加者総数と施設の会議室等合計面積の関係】



【一件当たり平均参加者数と施設の会議室等合計面積の関係】

- * 特に大きな施設 (30,000 ㎡以上) は除く
- * ● は札幌コンベンションセンター

③ 都市のポテンシャル

都市のポテンシャルは、M I C E の誘致に関する重要な要素の一つです。札幌は「人口」、「事業所数」、「ホテル等客室数」、「魅力度」の全てにおいて上位であり、他都市と比較して、都市のポテンシャルは非常に高いものと考えられます。

一方で、首都圏や関西圏に比べ来訪にかかる経費が高くなる傾向にあることや、冬季に積雪寒冷となる気象条件などの課題があることから、例えば、来訪経費に係る支援施策や外部に出ないアクセス動線の整備など、今後、さらなる配慮が必要となるものと考えられます。

なお、その他札幌には、新千歳空港の冬季の暴風雪による欠航リスクがありますが、本州においては、夏季の台風による欠航リスクがあります。また、札幌には、現状、航空機以外的高速交通機関でのアクセス手法として、新幹線がないといった課題がありますが、新M I C E 施設整備後、2030 年度には北海道新幹線の札幌開業が予定されているなど、その課題も解消される見込みとなっています。

【国際会議参加者数上位都市の状況】

	人口 (千人)	法人事業所 数	市内ホテル 等客室数	魅力度 ランキング
札幌	1,963	52,631	29,440	3
仙台	1,086	32,817	16,617	11
千葉	975	20,596	9,920	圏外
横浜	3,733	81,923	18,163	6
名古屋	2,314	80,578	27,423	21
京都	1,472	41,279	27,753	1
大阪	2,713	115,588	62,580	41
神戸	1,532	39,676	16,530	7
広島	1,199	36,394	14,373	34
北九州	951	24,838	9,574	圏外
福岡	1,567	46,587	27,129	14

【魅力度ランキング 2017・上位 10 都市】

順位	都市名	都道府県名	魅力度
1	京 都	京都府	48.1
2	函 館	北海道	47.7
3	札 幌	北海道	47.0
4	小 樽	北海道	41.3
5	鎌 倉	神奈川県	40.5
6	横 浜	神奈川県	39.7
7	神 戸	兵庫県	38.1
8	金 沢	石川県	37.3
9	富良野	北海道	36.5
10	屋久島	鹿児島県	35.5

- * 人口：「推計人口」（各都市ホームページによる、2017年10月1日）
- * 法人事業所数：平成24年経済センサス（総務省統計局）
- * 市内ホテル等客室数：衛生行政報告例（厚生労働省、2016年度）
- * 魅力度ランキング：ブランド総合研究所
- * 赤文字は表中の上位5都市

④ 施策の状況

各グローバルMICE都市においては、コンベンションビューロー[※]を設置し誘致の取組を行っているほか、国際会議の開催やシャトルバス運行等に係る経費の助成、インセンティブツアーに係る経費の助成などを行っており、助成額や内容など、それぞれ細かな違いは見られるものの、施策の方向性としては、概ね同様と言えるものとなっています。

各都市のソフト施策の中では、開催経費等に対する助成が柱となっていると考えられますが、助成金などの金銭支援以外では、市内大学と協定を締結するなど、大学機関との連携強化を行っている都市も多く見られます。その他には、資料の提供や立候補提案書類の作成支援などを行っている都市が多く、近年大きく開催件数を伸ばしている都市の中には、ピンバッジやコングレスバッグなど誘致ツールとしてのコンベンショングッズの提供、レセプション時に地元ワインの提供、開催決定から開催までの間の参加促進PR活動の支援など、多種多様な支援メニューを設けているところが見られます。

札幌市においては、国際環境指標プログラム「GDS-Index[※]」に加盟し、2015年にはアジア・太平洋地域で第1位となるなど、グリーンMICE[※]やCSR[※]の取組を先進的に進めてきており、平成29年度観光庁CSR事業対象都市にも選定されたところです。また、札幌市のコンベンションビューローについては、プロパー職員を育成しており、専門性が高く、語学力も高い職員が多いなどの特色があります。その一方で、大学機関との連携については、その取組に着手したところでもあり、他都市に比べて遅れているものと考えられます。

- ※ **コンベンションビューロー** 自治体や民間団体等により、国際会議等のコンベンションを誘致することを目的に設立された組織。
- ※ **GDS-Index** ICCA（国際会議協会）・IMEX（世界最大MICE見本市）・MCI（大手会議運営会社グループ）が提供する国際環境指標プログラム。MICE開催都市としてのインフラ環境面での評価を行うほか、都市の取組やコンベンションビューローの受入サポートサービスの改善指導を行っている。
- ※ **グリーンMICE** MICE運営における環境配慮型製品の使用や公共交通機関の利用等の、地球環境に配慮した取組。
- ※ **CSR** コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ（Corporate Social Responsibility）の略。企業の社会的責任。法令順守や社会貢献など、一般に企業が社会に対して果たすべき責任。

⑤ 施設や周辺環境等

グローバルMICE都市の主なMICE施設やその周辺の環境について、評価を行いました。下表のとおり、それぞれの都市で一定規模以上の施設があり、主な隣接MICE施設を合わせると、札幌の施設は最小の規模となっています。また、それぞれ、

- ・空港からのアクセスに優れている：神戸、福岡
- ・最寄駅からのアクセスに優れている：仙台、京都、大阪、神戸、北九州
- ・周辺ホテルが多い：千葉、広島、北九州

などの特長を有しています。

これら現状の施設に加え、各都市等で今後の整備が予定されています。

【各都市の主な施設の延床面積と今後の整備予定】

都市名	主な会議場	延床面積	主な隣接MICE施設	今後の施設整備予定
札幌	札幌コンベンションセンター	20,300㎡	—	
仙台	仙台国際センター	29,025㎡	—	H27.4 に展示場棟 (6,057㎡) を整備
千葉	幕張メッセ	168,578㎡	—	—
京都	国立京都国際会館	46,743㎡	—	H30 年度に展示ホール (2,500㎡) が竣工予定
名古屋	名古屋国際会議場	72,165㎡	—	ポートメッセの隣接地に展示場 (約 20,000㎡) の建設を計画併せて、会議施設の建設を検討中
神戸	神戸国際会議場	17,396㎡	神戸国際展示場	H25 年に「コンベンションセンター再構築基本構想」を策定しているが、現在は再検討中
広島	広島国際会議場	24,649㎡	—	—
福岡	福岡国際会議場	24,885㎡	福岡国際センター マリンメッセ福岡	H33 年度に新たな展示ホール (5,000㎡程度) が供用開始予定
北九州	北九州国際会議場	9,025㎡	西日本総合展示場 AIM	—

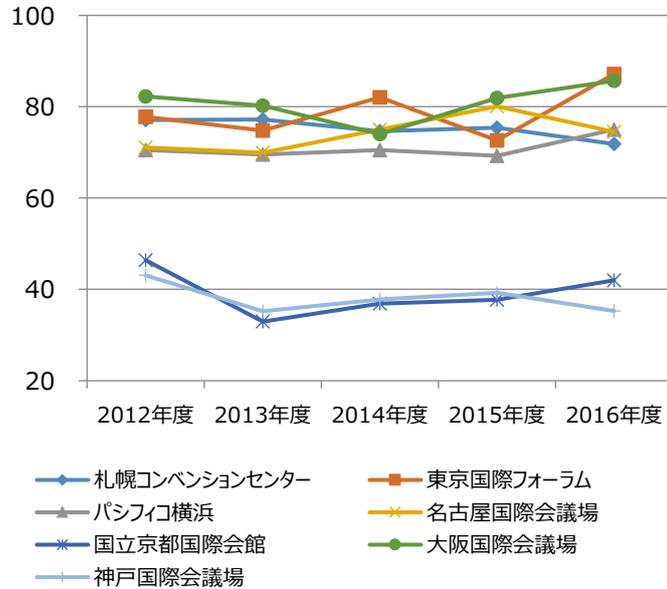
【その他都道府県・政令市における今後の整備予定】

都市名等	今後の施設整備予定	
群馬県	高崎競馬場跡地に整備予定 (2020 年度供用開始予定)	・多目的展示場:10,000㎡、 メインホール:1,300㎡、会議室:合計 2,100㎡
東京都	東京ビッグサイトに展示場を増築 予定(2019 年度供用開始予定)	・展示場:約 10,000㎡× 2
沖縄県	中城湾港マリンタウン地区に整備 予定(2020 年度供用開始予定)	・展示場:30,000㎡以上、多目的ホール:7,500㎡以上、 中小会議室:20~30 室
熊本市	桜町再開発事業により整備予定 (2019 年度供用開始予定)	・展示ホール:約 1,630㎡、多目的ホール:約 840㎡、 メインホール:約 2,300 席、会議室:約 30~300㎡(19 室)

⑥ 施設利用状況

グローバルMICE都市のMICE施設のうち、各種実績等が公表されているものの利用状況について整理しました。

稼働率については、ホール・会議室・展示場いずれについても、半数以上の施設で60%以上の稼働率であり、高いものでは90%に近い稼働率の施設もありました。また、施設全体の稼働率についても、同様の傾向にありました。



【施設全体 稼働率比較】

また、催事の開催状況については、各施設とも、学会や総会、展示会等だけではなく、多様な催事を開催しているところが多くなっています。特に、展示場で高い稼働率を維持している施設においては、コンサートなどの興行を行っているところが多く見受けられました。

2-2 札幌市のMICE誘致推進における現状と課題

(1) 近年の取組

札幌市では、「札幌MICE総合戦略」に基づき、以下のような取組を展開しています。

計画の概要

■ 札幌MICE総合戦略（2015～2019）

— 札幌の魅力あふれる“ONLY ONE”MICE都市 —

- 積極的誘致戦略【重点誘致ターゲット】
 - ① 国内及びアジアをターゲットとした学術系の大規模会議
 - ② 主に東アジア・東南アジアからのインセンティブツアー
 - ③ 国内外に向けたPR効果の高い政府系国際会議
 - ④ 札幌の特色を生かしたスポーツ関連の会議、大会、イベント
- 基盤の強化戦略【受入基盤強化】
 - ① 誘致・開催支援体制の強化
 - ② MICE施設整備とゾーン形成の検討

■ 具体的施策

- 誘致・セールス
次世代キーパーソンに対するサポート、誘致活動の連携を深める官民での情報共有、大型の社員旅行・視察旅行の誘致に向けた市場調査とセールス活動、主要国首脳会議（サミット）の関係閣僚会合の誘致、スポーツコミッションの設置、国内スポーツ関係団体と連携した情報収集・セールス誘致等
- 開催支援・おもてなし
市民向け公開プログラム等のMICEイベントの開催、MICE主催者や参加者の満足度調査等
- 人材育成・高度化
大学と連携した学生のMICEへの理解を深める機会の創出、官民一体による海外ネットワークを活用したノウハウの高度化等
- 組織・運営力の強化
MICE推進委員会ワーキンググループの活用、スポーツコミッションの設置等
- 施設・設備整備
札幌コンベンションセンターに係る連携強化と運営方法等についての検討、MICE施設整備の検討等

(2) 誘致・開催実績

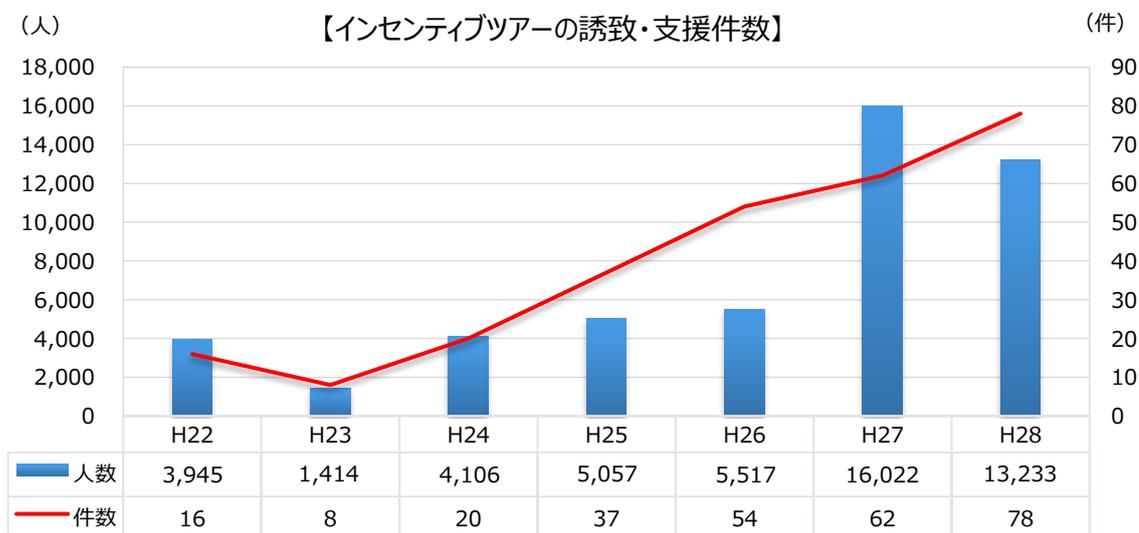
① 国際会議誘致・開催実績

2-1 参照

② インセンティブツアーの開催状況

海外からのインセンティブツアーについては、統一的な統計基準がないため市場全体の動向を把握することはできませんが、札幌では近年、インバウンド観光客（インセンティブツアーを含む）が大きく伸びており、平成28年度（2016年度）には外国人宿泊者数が過去最高の209万人を記録しました。

札幌国際プラザ・コンベンションビューローが誘致・支援したインセンティブツアーに関しても同様の傾向であり、その件数は増加傾向となっています。特に平成24年（2012年）10月の新千歳空港－バンコクの直行便就航を契機として、タイ、マレーシア、インドネシアを始めとする東南アジア方面からのインセンティブツアーが増加しているところです。また、参加者1,000名以上のインセンティブツアーが、平成27年度（2015年度）に3件（いずれも台湾）、28年度（2016年度）に2件（台湾、香港）実施されるなど、大規模なツアーも開催されてきています。



【国・地域別の誘致・支援数推移】

		韓国	中国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	その他	合計
2010	件数	1	2	4	2	3	3					1	16
(H22)	人数	500	305	2,105	255	240	280					260	3,945
2011	件数	2	2	2		1	1						8
(H23)	人数	230	54	750		200	180						1,414
2012	件数	5	2	4	1	1	2	5					20
(H24)	人数	542	422	1,833	40	51	410	808					4,106
2013	件数	5	6	7	2		4	4	9				37
(H25)	人数	286	523	1,897	270		888	393	800				5,057
2014	件数	8	6	10	2	1	1	14	9	2	1		54
(H26)	人数	1,122	330	1,265	468	163	32	1,527	513	54	43		5,517
2015	件数	14	3	11	3	2	5	9	9	5		1	62
(H27)	人数	1,020	197	12,029	197	213	325	793	1,021	155		72	16,022
2016	件数	10	7	19	5	4	12	4	8	6	2	1	78
(H28)	人数	1,206	1,676	4,844	2,465	275	983	258	563	595	308	60	13,233
計	件数	45	28	57	15	12	28	36	35	13	3	3	275
	人数	4,906	3,507	24,723	3,695	1,142	3,098	3,779	2,897	804	351	392	49,294

(3) M I C E 関連施設の状況

現在、札幌における国際会議等は、主に、札幌コンベンションセンターがある東札幌エリア、さっぽろ芸術文化の館がある西 11 丁目駅周辺地区、北大エリアの大きく 3 つの拠点において、ホテルや大学施設、公共施設等を効果的に活用しながら展開されています。

その中でも特に大規模な国際会議等は、さっぽろ芸術文化の館と周辺ホテルを連携させるなどにより、主に西 11 丁目周辺地区にて開催されています。

【主な M I C E 開催エリアの概況】



こうした状況の中、都市としての規模や魅力度等の M I C E 誘致・開催に有利となる条件は優れているものの、札幌コンベンションセンターはホールと展示場が併設されておらず宿泊施設も近接していないなど、札幌の M I C E 関連施設が他のグローバル M I C E 都市の施設と比較して必ずしも優れていないこと等により、他のグローバル M I C E 都市よりも、一件当たりの参加者数が少ない状況となっています。また、他のグローバル M I C E 都市の主要施設の参加者数は、都市全体の参加者数の約 5 ～ 7 割を占めている中で、札幌コンベンションセンターのその割合は 3 割弱であることから、札幌コンベンションセンターは、都市の主要施設としての競争力が弱い状況といえます。

さらには、さっぽろ芸術文化の館が平成 30 年 (2018 年) 9 月に閉館する予定であることから、これまでどおりの形での特に大規模な国際会議等の開催については、市内各施設間を連携させて開催するなど、工夫が必要となる状況にあります。

(4) 課題

これまでの現状分析等を踏まえ、以下のような課題が考えられます。

状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的なMICEの開催状況は、<u>3,000～10,000 人の会議の増加傾向が強く</u>、そのうち、<u>5,000 人規模までの会議割合が高い</u>。 	⇒ <u>施設単体で 5,000 人規模、周辺施設と連携し 10,000 人規模をターゲットとすることが効果的・効率的。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌は国際会議の開催件数で国内第 8 位（JNTO基準）ではあるが、<u>第 7 位との差は大きく</u>、開催件数上位都市と比べて<u>一件当たりの参加者数も少ない</u>。 	⇒ <u>参加者数を増加させるためには、大規模国際会議等を誘致・開催することが効果的。</u>
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルMICE都市の中で、人口・事業所・魅力度等のMICE誘致に関わる条件は優れている。 ・キーパーソン等を多数有する大学が存在している。 ・グリーンMICEやCSRなど、先進的な取組を進めているほか、コンベンションビューローに特色があるなど、特徴的なソフト施策がある。 	⇒ <u>施設整備による効果が見込めるとともに、その効果をより一層高めるためには、これらの強みを生かし、世界に伝えていくことが必要。</u>
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な国際会議等を単独で開催できる規模の施設がない。（札幌コンベンションセンターは展示場が併設されていないため、大規模な国際会議等の開催が難しい場合がある。） 	⇒ <u>大規模な国際会議等の誘致・開催のためには、単独で開催できる規模の施設が必要。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、さっぽろ芸術文化の館と周辺施設を連携させるなどにより西 11 丁目駅周辺地区で大規模な国際会議等を開催してきたが、平成 30 年（2018 年）9 月にさっぽろ芸術文化の館が閉館する予定。 	⇒ <u>市内各施設を連携させて大規模な国際会議等を開催する必要がある。また、大規模な国際会議等を単独で開催できる規模の施設が必要。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な国際会議等のニーズに応えられる魅力的な施設がない。（札幌コンベンションセンターは周辺に宿泊施設や飲食施設が少ないなど、<u>周辺環境の機能性や魅力が低い</u>のでMICE誘致に不利。） 	⇒ <u>大規模な国際会議等の誘致・開催のためには、ニーズを踏まえ、施設や周辺環境の機能性や魅力の高さも必要。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの大規模な国際会議の主な開催エリアは、札幌駅及び最寄駅からの<u>アクセス性が低く、利便性も低い</u>など立地が必ずしも良くない。また、冬季に積雪寒冷となる気象条件の課題もある。 	⇒ <u>アクセス性や利便性について、より優位な立地の施設があると競争力が高まる。</u>

(5) 課題解決に向けた基本的考え方

上記(4)で整理した課題の解決に向けて、以下の基本的考え方のもと施策を展開していきます。

都市の規模・魅力度やキーパーソンを有する大学の立地など、MICE誘致・開催に有利となる条件は優れているものの、展示場とメインホールが併設されたMICE施設が無いことや、MICE施設と宿泊施設の近接性が劣ることなどにより、国内の国際会議開催上位都市と比較し、大規模な国際会議の件数や開催割合が大きく劣っている状況。

国際会議参加者数を増加させるためには、増加傾向にある大規模な会議をより一層誘致していくことが効果的。そのため、他都市と比べて、札幌市が劣っているハード面の環境改善を図ることが重要

大規模な国際会議等の誘致・開催が可能な、市場ニーズを捉えたより魅力的なMICE施設が必要